

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)  
 A: 十分達成できている  
 B: おおむね達成できている  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

学校名	太良町立多良小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○評価項目の各観点では、9観点でA、6観点でBであり、本年度の学校教育目標は概ね達成できたと言える。</p> <p>○学校評価アンケートでは、児童・教師ともに昨年度より学校目標に対する意識が高い結果となり、学校目標を意識した生活をしたり、教育活動にあたることができた。</p> <p>○道徳教育については、昨年度までの研究の積み重ねを受けて、研究主任を中心にして全員授業体制で授業実践を行うことができた。</p> <p>○今年度から導入された「志を高める教育」では、毎時間の授業において、めあての提示・振り返りの発表・ノートの取り方等を学校全体で統一して取り組んだ。今後もどの子にも分かりやすい授業の定着をめざしていく。</p> <p>○教育相談月間などの取り組みや気になる児童に関する情報交換を通して児童理解が進んだ。特別支援教育コーディネーターを中心に、日頃から養護教諭、心の相談員やSC、適応指導教室「おれんじ」の職員と連携して支援してきた。不登校児童やその傾向がある児童などまだまだたくさん気になる児童がいるので今後も多くの職員が目で見守っていく。Q-Uテスト(2回実施)や心のアンケートを実施しているが、多くのクラスに要支援の児童がいる。よりよい学級集団づくりに関する研修が必要である。</p> <p>○特別活動の領域がAとなっているが、たてわり活動や集会活動等を充実させることで、主体的な活動がより促進されたと思われる。担当者による「学級活動」の具体的な提案によりすべてのクラスで学級活動の実践が推進されることが望まれる。</p> <p>○多くの体育的行事を計画的に実施することができたが、楽しみながら意欲を持って運動する児童を育てるためにスポーツチャレンジなども活用していく。</p>

2 学校教育目標	「元気いっぱい 笑顔いっぱい とともに学び合う 多良っ子の育成」を実現する。
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>重点目標① 目指す子ども像の確かな実現</p> <p>かしこく(= とともに学び合う) 課題を「自分事」としてとらえ、他者と関わりながらよりよく解決を図ろうとする子ども →主に「学力の向上」</p> <p>やさしく(= 笑顔いっぱい) 感性が豊かであり、多様な価値を認め、感謝と思いやりの心を体現する子ども →主に「心の教育」</p> <p>たくましく(= 元気いっぱい) 心身の健康を心がけ、元気で生き生きと活動し、粘り強く取り組む子ども →主に「健康・体づくり」</p> <p>重点目標② 特別支援教育の充実</p> <p>重点目標③ 特別活動の充実</p> <p>重点目標④ 地域・保護者に開かれた学校づくり</p> <p>重点目標⑤ 動きやすい職場環境づくり</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標
---------------

(1)共通評価項目				主な担当者
評価項目	取組内容	重点取組 成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員の割合が80%以上。	・学力向上対策シートの共通実践を校内研究の取組と関わらせることで、マイプランの取組を促進し、成果指標の達成を目指す。	山崎
	○多良小学校教育の質的改善	○教職員アンケートで「ペアで取り組む授業研究は自らの指導力向上に役に立ったか」について肯定的に回答した教職員の割合が80%以上。	・「授業づくりのステップ1・2・3」やチェックリスト、教育センターの「小学校算数科の授業の質的改善」コンテンツを活用して、全教職員が年間4回程度のペアで取り組む授業研究を行う。	鹿嶋
	○児童の読書の質・量の向上とコミュニケーション力の育成	○児童アンケートで「読書をするのは楽しいか」について肯定的に回答した児童の割合が70%以上。 ○児童アンケートで「外国語の授業で話したり聞いたりする力がついたと思うか」について肯定的に回答した児童が70%以上。	・児童の読書の質と量を向上させるための朝読書の取組を見直す。 ・魅力的な図書室づくりを通して、児童の読書への意欲を高める。 ・外国語活動、外国語科の授業を通して、児童のコミュニケーション力を育成する。	井上、林江口、(福田)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「人権集会で人権について深く考えることができたか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○教職員アンケートで「年間を通して豊かな心を育む道徳の授業を実施できたか」について肯定的な回答をした児童の割合が90%以上。	・人権意識を高める人権集会等の取組の充実を図る。 ・前年度までの研究成果を生かして、豊かな心を育む道徳の授業を毎週確実に実施する。	森山井上
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○教職員アンケートで「いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事案対応等)について組織的対応ができているか」について肯定的に回答した教職員70%以上。	・いじめ早期発見・早期解決のためのマニュアルを点検し、毎週連絡会で実態把握を行う。 ・いじめの対応についての実効性のある研修を年間12回以上行うとともに、気になる児童についての共通理解をこまやかに行う。 ・いじめの早期発見につながるように、毎月実施する「心のアンケート」の内容を改善する。	小野原、溝口
	◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて自ら考えて取り組もうとするための教育活動	◎児童アンケートで「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童の割合が70%以上。 ◎児童アンケートで「自ら考えて自学ノートに取り組むことができているか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。	・学級活動において、将来の夢や目標について考え、そのための行動を促すような機会を設ける。 ・児童が自ら考えて取り組む自学ノートの取組を行う。 ・学校行事や日々の生活場面で児童自身が考え判断できるような場を多く設ける。	大石貞方

●健康・体づくり	○望ましい生活習慣や食習慣の育成と安全に関する意識の向上	○児童アンケートで「校内で落ち着いた生活を送ることができているか」「登校班で協力して、安全に登校することができているか」「無言掃除に取り組むことができているか」「時間を意識してみんなで協力し、楽しく給食をとっているか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○残食が前年を下回る。	・校内での落ち着いた生活や登校班での安全な登校を促すための取組を行う。 ・児童が自覚して無言掃除に取り組むことができるような取組を行う。 ・給食におけるスムーズな準備・後片付けと食べる時間の確保、残食0を目指した取組を行う。	小野原 中村 武富 南川、太田
	○児童の心身の成長を促す運動会の実施	○児童アンケートで「運動会を通して、心身の成長を感じることができたか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○運動会の練習期間及び当日の体調不良者数が前年度を下回る。	・運動会における異学年交流を意図したレクリエーションの実施。 ・児童の健康に配慮して運動会に向けての取組や運動会当日のプログラムを見直す。	田中、川浪
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定と徹底を図る。 ・校務サーバーの教材フォルダに全学年の教材を集約・整理し、共有データの活用を図る。 ・校内研究の進め方を見直し、研究のまとめの簡素化を図る。 ・5Sを徹底し、効率的に働くことができる職場環境をつくる。	校長 教頭 山田 眞崎
	○職場における危機管理意識の向上	○教職員アンケートで「校務の内外を問わず、危機管理意識をもって行動しているか」について肯定的に回答した教職員の割合が100%。 ○年間を通して、教職員による交通事故など信用失墜行為が0。	・毎月末に「ゼロの日」を設定し、自らの職務を見直し、危機管理意識を向上を図る。 ・危機管理ファイルを活用して、日常的に危機管理に対する意識化を図る。 ・より実効性が高い服務研修を実施する。	校長 教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育に対する専門性と意識の向上	○教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上したか」「特別支援的な配慮を心掛けているか」について肯定的に回答した教職員の割合が50%以上。	・特別支援教育に関する研修会を2回実施し、若手教員が通常学級での対応に役立つ内容と気になる児童を取り上げての事例研究に取り組む。 ・ケース会議を開催し、関係教職員での情報共有を密にする。	太田
	○特別支援学級を中心とした特別支援教育の充実	○担当する教員の見取りで、対象児童の集中できている時間の伸びが見られる。 ○担当する教員の見取りで、学級の中で授業に集中できる児童が増える。	・1年生を中心に、発達障害もしくはその傾向が認められる児童の学習に対する集中力を高め、学習効果を高める取組を行う。	太田、武富 坂口、松尾、 野中
○特別活動の充実	○各学級における学級活動(話し合い活動→実践・体験活動)の充実	○学級活動において、学級独自の学級会(話し合い活動)を年間6回以上行う。 ○児童アンケートで「学級会に進んで参加したか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。	・学校全体で、学級会の進め方、学級会グッズ等を活用して、会の流れを統一し、共通実践と常時、学年グループ間での情報交換を行う。	横山、樋口
	○児童会の委員会活動の活性化	○児童の年間振り返りカードの自己評価で「よくできた」(◎)と評価した児童の割合が80%以上。	・振り返りカードを用いて、振り返り活動(自己評価)を充実させる。 ・メッセージボードを設置し、取組に対する他の児童からの正のフィードバックを可視化できるようにする。	大石
○地域・保護者に開かれた学校づくり	○学校のおよび取組の発信	○週に2回以上の学校ホームページのお知らせ、イベントギャラリーの更新 ○年間を通して、50号以上の学校便りを発行する。	・学校ホームページを通して、適時に学校の情報を発信する。 ・学校便りを発行し、学校の取組、児童の頑張りなどを家庭・保護者に伝える。	校長

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育